

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600418		
法人名	伊勢温泉観光株式会社		
事業所名	グループホーム にのみの家		
所在地	三重県津市新家町1488		
自己評価作成日	令和2年10月23日	評価結果市町提出日	令和3年1月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2470600418-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 2年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は住宅地の中にあり、地域の方々との交流も比較的盛んに行われていると思います。隣に光明寺と言うお寺さんがあり、利用者様の散歩コースになっています。春には見事な桜が咲き、今年は新型コロナウイルスの為、外出が出来なかったため、駐車場にテーブルを出し職員の手作りのお昼ご飯をみんなで食べながらお花見をしました。季節ごとの行事は全階合同で行うことが多く、職員同士も団結していると思います。外出が出来ない今の状況の中でも、利用者が落ち着き、かつ穏やかな日々を送って頂ける様に、職員一同で取り組んでいます。重度化してきて中、当施設では看取り等は行っていなかったが、ご家族様の強いご要望もあり、かかりつけ医などに協力して頂きながら対応するなど、より最善の方法に近付けるよう柔軟に対応している。今後も現状に囚われず多岐にわたり、訪問看護など取り入れるよう検討話をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は設置後15年ほど経過し、地域ではそれなりの実績を積み比較的安定した関係が築かれている。利用者は少しずつ介護に労力がかかるようになってきているが、各々の心身状況に合わせ、見守りをしながら必要な支援が適宜なされている。このような利用者を介護するため、職員は毎月の会議や日常の会話をとおして意見交換を活発に行い、研修を重ね、キャリアアップの努力を重ねており、事業所全体が組織的運営を向上させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新たな理念の検討をしていたが、コロナ禍により対応に追われる事が多く、理念は変わっていない。大変な時期の中、現事業所理念の再共有も含め、実践につなげるよう努めている。	法人は当事業所の他、近隣に二つの介護事業所を運営している。その理念は法人で定めただが、長い文書のため今、簡潔な文言にするよう職員間で検討中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、コロナ禍でイベント等の中止が多く交流が少ない。運営推進会議にて、意見の交換やお互いの要望に応えている。	昔からの農村で地域行事に参加したり、隣の寺の伝統行事に関わったり、散歩で寄り添っている。また、近くの小学生生徒と交流したり、保育園の防災訓練に事業所の敷地を貸したり、中学生の職場体験を受けている。コロナのため、法人や事業所の行事が開催できない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症や利用者様の日常を伝え、質問に応じたりして地域に還元している。桃園幼稚園の避難訓練に施設の土地を利用して頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域や包括と定期的に話し合う事により、段々と密になってきている。隣のお寺から伸びる木が、当施設の電線にかかりそうになっており、現在話し合いの中伐採の段取りをしているなど、役立っている。	日程は不定期でも、2カ月ごとに開催している。議題は事業所の取り組み内容を報告し、意見交換するが、かなり多くの質疑応答がされている。コロナ禍で2回、文書のみでやり取りした。	事業所設置後の地域関係もあり、意見交換は活発である。参加者は地域・行政等であるが、参加メンバーが限られているようなので、テーマによっては多面的に呼び掛ける工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	出来る限り情報を聞き取りに行ったり、新たな取り組みがあるかの有無の確認等、密に連絡を取っている。	運営所に疑問があれば行政にはすぐ問い合わせようとしている。最近ではコロナとインフルエンザ予防注射の関係を聞いたが、行政も不明確なようである。生活保護も5名あり、保護課によく問い合わせしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に4回定期的に内部研修を実施。具体的な行為など、正しく理解できるよう努めている。また、職員にYベルトを着用し疑似体験をして頂き「恥ずかしい。」や「動きづらい」などの感想を、他職員に伝えるなどした。	ケアマネジャーを中心に職員間でよく議論したり、研修している。拘束やむなしになれば、家族に了解を求めるが、今はその事例がない。ただし、玄関頭上には電気式ロックがかかっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に4回定期的に内部研修を実施しており、虐待防止について学び防止に努めると共に、見過ごさない様注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は利用している方がみえ、自立支援については内部研修等で、理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を読み伝え、その都度質問や疑問点を訪ねて、理解や納得を得ている。また契約時以降も疑問等があれば、その都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口はあるが、意見や要望等のみを聞き取る機会などは設けていない状態。ご家族様から具体的なお話など無いが、会話の中から汲み取るなどして、運営に反映できるよう努めている。	コロナ禍で家族にも面会を断っているが、希望によって玄関先で面会してもらっている。家族からの意見は少ないが、家族には請求書に加え事業所の日常を知らせる「たより」を同封している。家族の多くは負担金の現金払いのため、毎月来訪してくれる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で上がった事や、日々の業務中での意見等を代表者に伝え、運営に反映できるよう努めている。	職員会議はフロアごとに毎月行っている。この中で、各委員会・カンファレンス・職務分担上の確認等を行っている。特に各自の意識改革を図るため、職務上の進捗について自己チェックを試行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度が確立されていないので、個々の職員は中々代表者に評価して頂く機会は無いが、チェックリストの作成をしており、通常業務やその他の勤務状況が少しでも把握出来るように現在進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍であり、以前に比べて外部研修等に参加しておらず、内部研修を中心に日々の業務中に話し合ったりして取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍であり、他者の同業者やグループ内で接する機会は少ないが、グループ内施設への応援などの交流により、サービスの質の向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込みより利用者の話をよく聴き、要望に応えるようにしている。信頼関係を築ける様に何度も話し合いをするように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込み時、家族からの要望を聴き、不安が解消されるまで何度も話し合いを行い、信頼関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族等との話し合いの中で、今必要な事は何かを見極め、他のサービスと並行し支援するように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と同じ時間を過ごし話をする中で、お互いを知る事により、よりよい関係を築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と話をする時間を作り、家族が本人に抱く思いを共有し、ともに支えていけるような関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や思い出の場所の記憶の保持に努め、充実した生活を送れるように支援している。	コロナで外出できないが、以前はよく実家付近まで出かけていた。今は家族同伴の外出が多くなったが、家族も全体に控えめになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々利用者との関わりのなかから、利用者同士が互いに助け合いながら協力する事で、安心して生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退所後も家族の意向を尊重しながら関わりを持ち、相談や支援に応えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中から、本人の希望に添うように支援している。困難な場合は普段の生活状況を観察し、本人の立場になってみんなで考え、家族の了承の上、支援している。	重度化し、失語症もあり、職員の言うことが理解できなかったりするので、管理者はその対応に注意している。いろいろな人のいろいろなニーズへの対応に職員は苦勞するが、それでも管理者は見落としのないよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所にあたり、本人や家族と十分に話し合い、今までの暮らし方・生活歴を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、体調や心の変化を見落とす事のないように気を付けている。また今出来る事を持続できるように見守りながら行って頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットでの職員会議において、職員、医師や家族の意向や本人の希望に添った介護計画を作成するように努めている。	モニタリングとケアプランは3か月毎に見直しするが、他に体調の変動、認定変更後にも検討している。カンファレンスは1～3階を別々にするが、1階の管理者が全ての集まりに出席している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の気づきを漏れのないように記入し、職員間で情報を共有しながら実践している。介護計画の更新時、職員会議でモニタリングを行い、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせて個々に対応するようにしている。状況によっては直ぐに対応できないこともあるが、可能な限り支援できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中、ボランティア等外部からの協力を得られないが、職員全員が力を合わせ、利用者にも手伝ってもらいながら、様々な行事を行い、楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族からの希望を元に、協力医の往診や、かかりつけ医への受診等、柔軟に対応している。また緊急の場合は家族の意向に沿って対応している。	協力医が毎月往診している。しかし入居前の通院先に通う人も半分近くある。通院先は整形外科・内科・皮膚科・リハビリ・総合病院等に行くが職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設には看護職がない為利用者の急変時には、かかりつけ医に連絡・相談し、対応している。夜間等連絡が取れない時は介護者の判断で救急対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍で利用者が入院した際の面会は制限されているが、ケアマネを通じて病院関係者との情報交換や相談を定期的に行って、早期退院が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の変化に伴い、家族さんに施設での出来事を十分に話し合った上で、方針を決めて支援するように努めている。家族が看取りを希望されれば、医師との連携をはかり、事業所で出来る事・出来ない事を十分に説明し納得して頂き支援している。	看取りはしない方針で、指針もないが、家族に頼まれ最後までお世話をした経験はある。訪問看護との連携はしておらず、法人もその意向はない。協力医の指導を受けながら、職員でできる限りのことをして、穏やかな最期を迎えてもらった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の研修の中で、職員全員が利用者の急変時や事故発生時の初期対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害別のマニュアルに沿って臨機応変に対応できるように職員全員が周知徹底するように努めており、非常食等も少ないながら備蓄管理している。昨年は防災コーディネーターによる災害時における避難訓練を行った。	6月、12月に防災訓練をした。訓練時、消防署は参加せず防火管理者が主体で行うよう指導された。近くに住む職員には休みでも訓練に参加してもらおう。火事、水害、津波の各マニュアルが策定されている。当事業所が近隣の救護場所になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の人格を尊重し、誇りを損なわないように気を付けながら、言葉かけを実践している。又プライバシーに配慮し、介助を行うよう心がけている。	会議や研修の都度、プライバシー保護の総合的な取り組み方について確認している。日常的にも全般的に注意している。排泄、入浴介助ではその都度ドアを閉めて支援している。利用者への呼びかけは苗字を呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とは日々接する中で、その人の思いを汲み取り、希望に添った支援が出来る様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の今までの生活リズムをあまり変える事のないように、一人ひとりのペースにあわせた支援を行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みや、季節に合った服装が出来るようにお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や食事後の片付けや洗い物等、出来る事は一緒に行っている。又、誕生会等の行事には希望に添ったメニューになるようにしている。	メニューと食材は業者に依頼、調理は職員がする。誕生会や行事は独自のメニューで提供するが、普段食べられないものを作っている。時には手作りおやつも作っている。今は体調、その他で、利用者は手伝いできない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・摂取水分量を毎食記録し、明らかに減少している時は、医師の指示のもと、栄養補助食品等で補っている。水分量が少なければ、好みの物を提供し、水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前に、自分で出来る人には声かけ・見守りしている。拒否があり介助も難しい人は、定期的に歯科医師に往診をお願いし、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	起床時・就寝時や食事の前後等、時間を決めトイレに座ってもらうようにしている。	排泄自立は少ない。排泄チェックするが見守りは2～3名、あとは適宜誘導している。津市の紙おむつ給付事業によるおむつ量では不足がちである。便秘が多いので食事で野菜を増したり、時には医師に下剤処方を頼んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をし、毎日の排便の確認を行う。便秘気味の人には、水分摂取や運動を促す。又医師に相談し、便秘薬の処方してもらう。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に添った時間に入浴は出来ないが、可能な限り希望に答えるように支援を行いたい。	週3回入浴できるよう順番を決めており、利用者が分かりやすい順番票が貼ってある。時間は午後が多く、一般浴槽であるが、介助しやすい椅子が置かれている。同性介助にこだわらない人が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の体調に合わせて、食後横になって頂いたり、午睡を進めている。又自宅で使っていた枕や布団等を持ってきて頂き、安心した眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の目的・副作用を理解するように努めている。服薬確認や体調に変化があれば、その都度医師に相談し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	折り紙やぬり絵等、その人の得意な事を生かしてみんなで一つの作品が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中、外出等が出来ないが、お天気の良い日には、体調に合わせて散歩や外気浴を行い、気分転換を図っている。	これまでは4月は花見、5月いちご狩り、6月アジサイ祭等、毎月何かの行楽行事をやってきた。現在コロナで外出できないので庭でピュッフェをしたり、近くを散歩したり、隣の寺に行く等の工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様によっては、支払いの心配をするなど、お金の大切さを理解しているように思う。また以前は外出時等、希望があれば買い物をし、自分で支払いもしていただいていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛け、家族様とお話して頂いている。また年末には年賀状を書き、家族様に年始の挨拶をされている。家族様からのお手紙は居室に貼り、いつでも読めるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激のある配色を避け、季節感のある作品を壁に飾り、落ち着いた雰囲気の中で過ごして頂いている。温度・湿度とも利用者に配慮し、一定に保てるようにしている。	屋は皆がホールに出てきて手芸品作り等、各々ができていることをしている。できた品は法人本部の秋祭りに展示する。室内は木張りのため雰囲気がやわらかで、冬は床暖房で動きやすくなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の畳スペースや自席にて、気の合った人どうしが話をしたり、テレビを観たりして、ゆっくりと過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染のある小物を居室に置き、安心して過ごせる空間作りを心がけている。	ベッド・エアコン・クローゼット・トイレ・洗面台は事業所でセットしてある。他の調度品は各自好みや必要に応じて持ちこんでおり、仏壇を置いている人もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すりを持ち、自立して安全に移動が出来るようにしている。居室のトイレにも手すりがあり、立ち上がり時等にも安全なようになっている。		